福島再生加速化交付金（福島定住等緊急支援）/福島定住等緊急支援交付金

定住緊急支援事業計画の実績に関する評価

平成28年12月
福島県　大玉村

（様式１）

定住緊急支援事業計画に基づく事業等の評価一覧

平成28年12月時点

1）事業の実施概要

（単位：千円）

No.	事業番号（注1）	事業名（注2）	地区名 施設名	基幹/ 効果促進	事業 実施 主体	全体事業費（注3）	全体事業 期間（注4）	年度事業費（注5）			評価 実施時期（注6）	その他
								平成25年度	平成26年度	平成27年度		
1	A － 1 － 1	大玉村学校施設等遊具更新事業	玉井幼稚園・小学校、大山幼稚園・小学校、大玉村保育所、放課後児童クラブ	基幹	村	（48,986） 49,572	25～26		（48,986） 49,572		平成28年12月	
2	B － 1 － 1	大玉村屋内運動施設整備事業	改善センター体育館	基幹	村	（424,795） 424,796	26～27		（21,113） 21,114	（403,682） 403,682	平成28年12月	
3	◆ B － 1 － 1 － 1	大玉村屋内運動施設整備事業（外構工事）	改善センター体育館	効果促進	村	（14,103） 20,706	27～27			（14,103） 20,706	平成28年12月	
4							～					
5							～					

2）事業計画に記載した地域の復興における支障の解決に係る目標（注7）

	指標	従前値		目標値		実施後の値		達成度	モニタリング方法	効果発現要因（総合所見）	今後の対応	備考（注8）
			基準年度		目標年度		確認年度					
目標1	村内小学生の肥満児童の割合	11.09%	H25	9.00%	H28	9.18% （H27年度最新データ）	H28	91%	安達地区学校保健統計結果による	遊具の更新や屋内運動場の改築によって子どもたちが安心して運動できる環境と機会が確保され、肥満児童の割合が減少した。 なお、目標未達成の原因については、当初想定よりも効果の発現に時間を要したことが考えられる。	○村広報誌、ホームページ及び各学校の学校だより等により、屋内運動場や遊具の一般開放についてさらに周知PRを行い、広く利用してもらうよう努める。 ○運動施設に対する意見等を募り、より良い利活用のための取組みを図る。 ○目標達成に向けて今後もフォローアップを行う。	A-1-1,B-1-1,◆B-1-1-1
目標2	屋内運動施設の未就学児・小中学生等の利用者数（4月～8月）	1,042人	H25	2,500人	H28	2,852人	H28	124%	教育委員会集計による	屋内運動場の改築によって、子どもたちが安心して運動できる環境が整備されたことにより、利用者が増加した。また、駐車場が整備されたことで、送迎がしやすくなり、イベントやスポーツ少年団等でも利用された。	○村広報誌、ホームページ及び各学校の学校だより等により、屋内運動場についてさらに周知PRを行い、広く利用してもらうよう努める。 ○運動施設に対する意見等を募り、より良い利活用のための取組みを図る。 ○スポーツクラブやスポーツ少年団とタイアップし、新たなスポーツ教室やスポーツ大会の開催を検討する。	B-1-1,◆B-1-1-1
目標3	小学生の新体力テストによる体力・運動能力の前年度との違い	－	H25	平成25年度からの向上 男子　8項目中5項目 女子　8項目中4項目	H28	平成25年度からの向上 男子6項目6項目 女子6項目6項目	H28	男子120% 女子150%	教育委員会資料による	遊具の更新や屋内運動場改築により、子どもたちが自由に遊びまわれる環境が整った。そのため運動機会が確保され、運動能力が向上した。	○土日祝日や平日の放課後に行っている遊具の一般開放を周知PRすることや、遊具を使った体力づくりのメニューを考案するなど、さらなる運動習慣の定着を図っていきたい。 ○村広報誌、ホームページ及び各学校の学校だより等により、屋内運動場の周知PRを行い、広く利用してもらうよう努める。また、運動施設に対する意見等も募り、より良い利活用のための取り組みを図る。 ○スポーツクラブやスポーツ少年団とタイアップし、新たなスポーツ教室やスポーツ大会の開催を検討する。	A-1-1,B-1-1,◆B-1-1-1
目標4												
目標5												

3）その他目標（2）に掲げたもの以外の目標）（注7）

	指標	従前値	基準年度	目標値	目標年度	実施後の値	確認年度	達成度	モニタリング方法	効果発現要因（総合所見）	今後の対応	備考（注8）
目標1	幼稚園児の外遊び回数	ー	H25	3回/週	H28	5回/週	H28	167%	村内幼稚園への聞き取りによる	遊具更新によって放射線への不安感が解消された。子どもたちが自由に遊びまわれる環境が整った。	○土日祝日や平日の放課後に行っている一般開放を周知PRすることや、遊具を使った体力づくりのメニューを考案するなど、さらなる運動習慣の定着を図っていきたい。	A-1-1
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												

（注1）「事業番号」は、基幹事業については、「（制度要綱別表の番号）-（同一事業計画中の同種の事業の通し番号）」、効果促進事業については、「◆（最も関連する基幹事業の事業番号）－（最も関連する基幹事業ごとの通し番号）」となるよう記載する。
（注2）「事業名」は定住緊急支援事業計画に記載された事業名を記載する。
（注3）「全体事業費」は、「全体事業期間」を通じての全ての事業費と交付対象事業費をそれぞれ記載する（交付対象事業費は（）で記載）。
（注4）「全体事業期間」は、事業着手年度から全ての事業内容が完了する年度までを記載する。
（注5）「年度事業費」は、事業着手から事業完了年度までの各年度の交付対象事業費と全ての事業費の実績額をそれぞれ記載する（交付対象事業費は（）で記載）。
（注6）「評価実施時期」は、定住緊急支援事業計画に基づく事業等が完了した日の属する年度の翌年度の12月末日までの実施した時期を記載する。
（注7）2)には定住緊急支援計画上記載した内容を、3）には定住緊急支援計画上全く記載をしていないものの、今回の整備により期待される効果があれば記載する。
なお、A-1,B-1,2,C-1事業については、子どもたちが十分に運動する機会の確保の観点、C-2,C-3については子育て世帯の定住に資する観点から、維持管理や運営の視点、ソフト事業との相乗効果などの面も含め目標を記載する。
（注8）「備考」の欄には、当該目標の評価対象となる事業番号を記載する。

（様式2）

個別事業等実績評価シート

平成28年12月時点

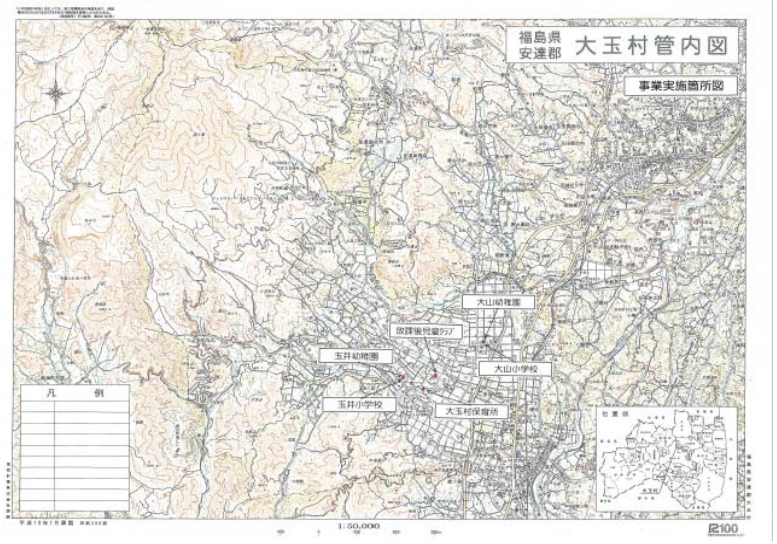
県名	福島県	交付期間	平成25年～26年度	交付対象事業費	48,986千円
市町村名	大玉村	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	A-1-1

1）事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標（注1）（注2）

○村内の幼稚園、小学校に新たな遊具を整備することにより、放射能不安のため外遊びの機会が失われていた子どもの運動機会を確保し、もって子供たちの健全な運動習慣の定着（肥満児童数の減少）を図る。

【区域全体図】



【事業詳細】
（1）事業概要
子どもの運動機会の確保と子供たちの健全な運動習慣の定着を図るため、村内幼稚園2園、小学校2校、保育所、放課後児童クラブにある遊具40基を更新した。
○玉井幼稚園・玉井小学校（併設）：18基　（ネオネットラダー、鉄棒、ジャングルジム、タランチュラクライマー、うんてい、すべり台、クライマーズ、ブランコ（安全柵含む）、のぼり棒、馬とび）
○大山幼稚園・大山小学校（併設）：17基　（すべり台、のぼり棒、うんてい、ジャングルジム、鉄棒、ブランコ（安全柵含む）、シーソー、プレイコンビ、忍者渡り）
○大玉村保育所：4基（すべり台、ブランコ）
○総合福祉センターさくら（放課後児童クラブ）：1基（複合遊具）
（2）事業の実施状況
①工事期間：平成26年1月～平成26年7月　②完成時期：平成26年7月　③供用時期：平成26年7月
④一般開放の実施状況
土日祝日や平日の放課後に一般開放を行っており、子どもたちが遊具を利用し、遊んでいる姿が見られる。
（3）人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係
原発事故後、人口の約0.7%に当たる60人が村外に避難した。当時、村内学校施設等の校・園庭では表土除去が行われ線量は下がっていたが、屋外での遊びに不安を感じる保護者も少なくなかった。特に遊具については、震災前に設置されており、保護者が子どもたちの遊具使用について不安を感じていたため、屋外での遊びは減少している状況だった。
本事業にて遊具の更新を実施し、その後、村内の幼稚園に聞き取り調査を行ったところ、更新前に比べ外遊びの機会が増加したことが確認できた。放射線の不安を払拭し、子どもたちが自由に遊具遊びができるようになったことが伺える。小学生の肥満児童の割合が11.09%から9.18%へ減少したことからも、外遊びの機会が失われていた子どもたちの運動機会を確保し、健全な運動習慣の定着が図られたことが確認できた。

①避難者数　（H25.8時点）51人（22世帯）⇒（H28.8時点）　0人（0世帯）【原発災害対策係調べによる】
②肥満児童の割合　（H25）11.09%⇒（H27）　9.18%【安達地区学校保健統計結果による】
③体力・運動能力　平成25年度と平成28年度を比較し、男女共に8項目中6項目向上【小学校新体力テスト結果による】
（4）その他
【有識者会議での意見等】平成28年12月15日に開催された教育委員会の会議において意見を徴した結果、①（保護者の意見として）子どもの口から「今日は○○という遊具で遊んだよ」と具体的な遊具名が出てくるようになった。②肥満児童の割合の低下や体力テストの結果上昇など目に見えて効果が上がっている。大変良い事業だった。
【玉井幼稚園の外遊び風景】

ジャングルジム
（平成28年4月）

滑り台
（平成28年4月）

鉄棒
（平成28年4月）

事業計画推進による効果・変化（注2）

○村内の幼稚園、小学校等遊具の更新により、子どもたちの運動機会を確保し、子供たちの健全な運動習慣の定着を図った。（肥満児童割合が1.91ポイント減少）。
○遊具を更新したことで保護者の放射線の影響に対する不安がなくなり、村内の幼稚園では週に5日外遊びが行われるようになった。

効果、変化を踏まえた今後の方策（改善策を含む）（注2）

○村内幼稚園、小学校遊具の更新について、更に村民に広く周知することで、休日の利用増を狙う。
○幼稚園・小学校では、教師が更新された遊具の正しい使い方を指導するとともに遊具を使った体力づくりのメニューを考案するなどの取り組みを行う。
○今後はアクセス良好な立地条件を活かし、土日祝日や平日の放課後に行っている一般開放を更に周知PRすることや、遊具を使った体力づくりのメニューを考案するなど、より一層の運動習慣の定着を図っていきたい。

（注1）様式1の2）に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

（注2）様式1の2）に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。

（様式２）

個別事業等実績評価シート

平成２８年１２月時点

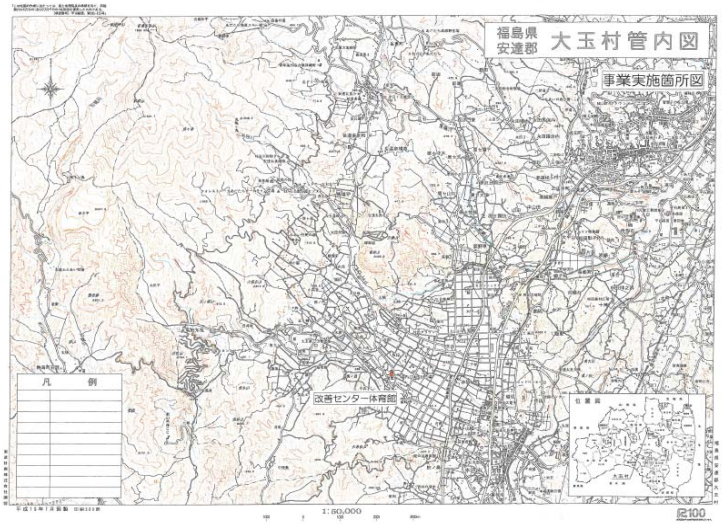
県名	福島県	交付期間	平成26年～27年度	交付対象事業費	438,898千円
市町村名	大玉村	実績評価実施時期	平成28年度	評価対象事業	B-1-1、◆B-1-1-1

1）事業の実施概要

事業計画に記載した地域の復興における支障を解決するための目標（注1）（注2）

〇改善センター体育館の改築により、村内に居住する子どもたちに年間を通じて元気に遊び、活発に運動する機会・環境を提供し、体力の向上や村全体の活力につなげること。
〇駐車場を整備することにより、屋内運動場の利用促進を図り、子どもの運動機会の確保につなげること。

【区域全体図】



【事業詳細】

（1）事業概要
〇放射能に対する健康への影響の不安から屋外での遊びや運動機会が減少している子どもたちを対象に、運動機会の確保や体力の向上を 図るため、屋内運動施設を整備した。
建築面積：1210.87㎡（S造、平屋建て）。フットサル・テニスコート各1面。クライミングウォール2箇所設置。
床面素材：砂入り人工芝
〇屋内運動施設の利用促進を図り、子どもの運動機会を確保するため、保護者等が送迎時等に利用する駐車場を整備した。
延床面積：1,716㎡　　駐車スペース：25台分
（2）事業の実施状況
①工事期間　（屋内運動場改築工事）平成27年3月～平成28年3月　（駐車場整備工事）平成28年1月～平成28年3月
②供用時期　平成28年4月　③運営日・時間 毎日（年末年始を除く）8:30～21：30
④利用料金　村民は無料。営業で使用する場合等は、村内の方2,000円/時間、村外の方3,000円/時間
⑤利用状況　未就学児等、クラブやスポーツ少年団の小学生、サッカー、野球部の中学生、一般村民が利用している。
（4月901名、5月444名、6月528人、7月597人、8月382人合計2,852人）
（3）人口流出及びそれにより生じている地域の振興における支障との関係
平成23年3月の原発事故以来、本村の子どもたちも放射線に対する懸念により屋外運動の制限を強いられ、運動時間が大幅に減少した。こうした不安を解消するため、グラウンドの表土除去等の除染活動に取り組んできた。それでも空間線量の高い箇所が見受けられ、グラウンドコンディションが悪化し使用に耐えない場面が増えていた。さらに、震災の影響により屋外でのスポーツや体力づくりの場所として、屋外スポーツが可能な改善センターに集中し、子どもたちの活動の場が十分に確保できない状況があった。
本事業により、雨天時でも小学校のスポーツ少年団や中学校の部活等で使用ができるようになり、子どもたちの運動機会の確保につながった。また、駐車場が整備されたことで保護者等が送迎等で利用しやすくなり、スポーツ少年団やイベントなど大人数での使用も可能となった。その結果、利用者が増加した。
①避難者数　（H25.8時点）51人（22世帯）⇒（H28.8時点）0人（ 0世帯）【原発災害対策係調べによる】
②肥満児童の割合　（H25）11.09%⇒（H28）9.18%（※H27年度結果）【安達地区学校保健統計結果による】
③体力・運動能力　平成25年度と平成28年度を比較し、男女共に8項目中6項目向上【小学校新体力テスト結果による】
（4）その他
【有識者会議での意見等】平成28年12月15日に開催された教育委員会の会議において意見を徴した結果、①もっとユーティリティ性の高い施設だということをPRして、更なる活用増加に繋げてはどうか。②村保育所の保育時間内での活用を図ってはどうか。また、午後の村内未就学児童の利用を促進してはどうか。③施設の愛称（名称）を募集してはどうか。④肥満児童の割合の低下や体力テストの結果上昇など目に見えて効果が上がっている。大変良い事業だった。
【写真掲載】

外観（平成28年8月）

おおたまオータムフェスタ（平成28年10月）

サッカーをする子供達（平成28年5月）

事業計画推進による効果・変化（注2）

〇改築した屋内運動場の利用により、子どもたちの運動能力が向上した（肥満傾向児童割合が1.91ポイント減少）。
〇駐車場整備により、保護者の送迎等がしやすくなった。スポーツ少年団やイベント等の送迎にも利用されるなど利便性が向上し、屋内運動施設の利用促進につながった。（目標値に対し、現在のところ利用者が1.14倍に増加）。

効果、変化を踏まえた今後の方策（改善策を含む）（注2）

〇村広報誌、ホームページ及び各学校の学校だより等により、周知PRを行い、広く利用してもらうよう努める。また、運動施設に対する意見等も募り、より良い利活用のための取り組みを図る。
〇スポーツクラブやスポーツ少年団とタイアップし、新たなスポーツ教室やスポーツ大会の開催を検討する。

（注1）様式１の２）に掲げた目標のうち、本様式に記載する事業に係るものを記載する。

（注2）様式１の２）に掲げた目標が複数の事業等を一体的に実施することで達成されると想定される場合、関連する事業等を総括した全体評価による記載も可とする。